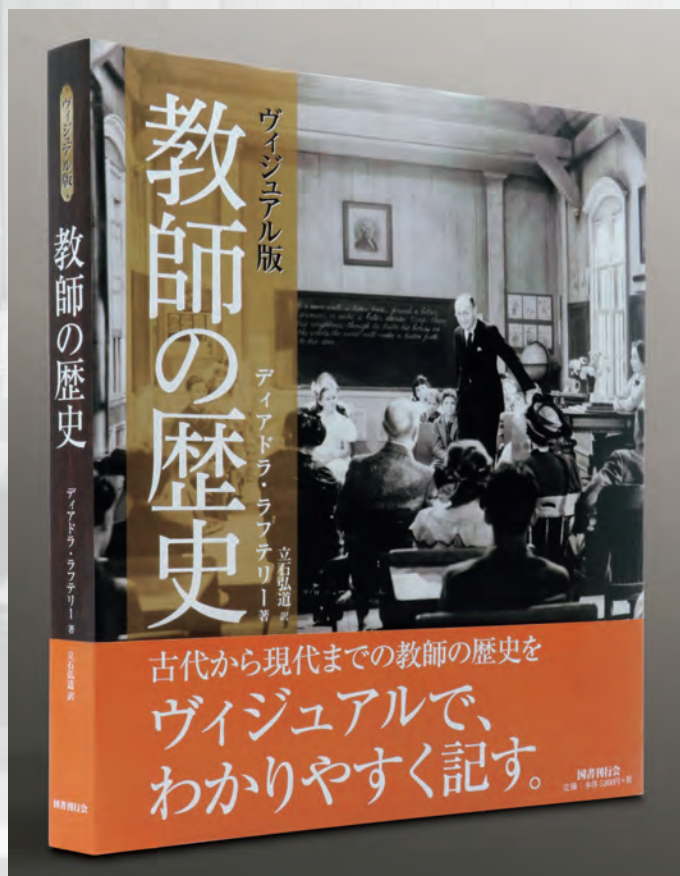


ヴィジュアル版

教師の歴史

ディアドラ・ラフテリー 著 / 立石弘道 訳



古代から現代までの
教師の歴史を
ヴィジュアルで、
わかりやすく記す。

誰も、「よくしてくれた先生」のことは覚えている。読者はあらゆる時代の教育者たちの役割や歴史の変化について学ぶ。古代文明の時代の教師から、中世の修道士、そして今日の勤勉な専門職の教師に至るまで、なぜ教師たちが尊重され、敬愛されてきたのか、その多くの理由を読者は理解することになるだろう。また、芸術、文学、映画、テレビなどにおける教師の役割も概観する。戦争と激動の時代、何世紀にもわたって未開地に率先して入り、かつ布教活動した教師たちが、取り残されて

てきたコミュニティや貧しい地区、また世界中の辺境地域に教育をもたらしてきた。

すぐれた絵や写真には、魅力的な授業のシーンや鍵となる人物のポートレートも含まれている。教育という専門職のもつ喜びや挑戦を通じて、読者はこの本で忘れ難い教師たちに出会うことになるだろう。

目次

はじめに

第一部 近世まで

古代 中世 近世 (1450 年頃～ 1800)

【教師の服装】

第二部 19 世紀

教師と慈善団体による教育 アメリカにおける教師の養成
モントリアル・システム (助教法)

アイルランドの教師たち 女子教育 教育と布教

アメリカ先住民 (ネイティブ・アメリカン) の学校教育

オーストラリアとニュージーランドにおける先住民教育

普通教育 (Universal Education) 世界の教育・学習理論

変化する教育

【スレート (石板) からタブレットへ】

第三部 20 世紀

変化する教室 教育に関する研究 教える条件

スロイド教育 教育についての社会調査の衝撃

革新者と教職 教育と変化 教員教育と養成訓練

試練の時代——戦争と恐慌 物語の中の教師

映画の中の教師 テレビ作品の中の教師 舞台の上の教師

【詩と教育】

第四部 教職の現在と未来

教師たちと教育の革新 人生に変化をもたらす教師

教師と芸術 教師、テクノロジー、そして変化

教師としての博物館・美術館 称賛される教師たち

【教育の擁護者】

スレート(石板)からタブレットへ

2世紀の間、教室で読み書き算数を学ぶさい、生徒はスレートを使った。19世紀前半、それが紙に代わり、21世紀には、電子端末が学校に登場した。

スレートと尖筆は最古の時代からの生徒の道具で、19世紀の教室でもまだ使われていた。薄く切った石を木製の枠にはめこんだもので、時にはチョークを消すためのスポンジが紐の先についていた。19世紀の多くの学校ではスレートは共用で、生徒たちはしばしばそれに唾をつけ袖で拭きとった。それは伝染病が広がる原因にもなった。

スレートは教師用の黒板としても使われた。それは支え台の上に置かれるか、教室の壁に懸けられた。黒板の欠点はチョークから生じる粉だった。1950年代に登場した白板は、それにくらべて清潔だった。最初はエナメル加工のステンミルが使われたが、これはコストがかかった。ラミネート加工や、ビニール塗装、アクリル樹脂塗装のものも、20世紀後半にはより安価な代替物となった。ドライタイプのマーカーが使用されていて、表面を拭うのに湿ったスポンジなどが使われている。

今日では双方向対話型の白板が一般的である。それはコンピューターに繋がっていて、プロジェクターがコンピューター画面を白板に映し出す。教師と生徒はスタイラスペン、マウス、あるいは

指でコンピューターを操作する。

スレート時代の尖筆が、電子タブレット用のスタイラスペンとして現代に蘇ったが、それ以前に尖筆に替わって使われたのは鉛筆だった。グラフィット(鉛筆の芯の材料)は、イギリスで16世紀に発見されていたが、鉛筆の大量生産はドイツでおこなわれた。ニュールンベルグの家具職人カスパー・ファーバーは、余暇に木製の鉛筆を作った。これが1761年設立のファーバー・カステル社の始まりだった。アメリカでは、ジョゼフ・ディクソンが1847年にジョージア州に鉛筆工場を作り、そこで1分間に鉛筆137本分の木材を製造する機械を開発した。ビジネスは成功し、19世紀末には1日当たり25万本の鉛筆が消費された。だがアメリカで最古の鉛筆が作られたのは、1812年マサチューセッツで、家具職人ウィリアム・モンローによる、とされている。

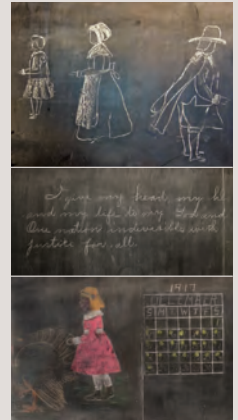
習字帳は18世紀中葉に初めて使われ、19世紀に広く使われた。小学校教師は手本のついた練習帳を好んで用いた。毎ページ記体の文字の手本が上段に示されていて、生徒はできるだけ忠実にそれを真似て書いた。



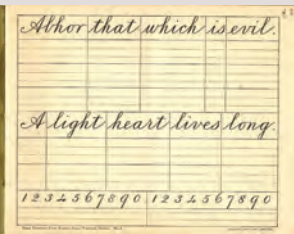
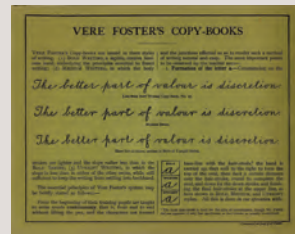
上: 白板と電子スタイラスペンを使用する21世紀の教壇。フランス、リヨン。

下: 19世紀の手本付き習字練習帳のページ。手本として簡単な英語を載せている。因幡前専用の練習帳もあった。

右: 1917年当時の黒板。オクサホマシタイのエアーズン高等学校で、黒板を撤去したさいに、その下からひと続きの古い黒板が出てきた。



左から右:
①スレートをもつ児童。②ろう織と尖筆をもつ女性。ローマのモザイク画。③ファーバーの鉛筆。ドイツ企業のカタログ(1897)より。④電子タブレットを操作する子ども。



本文組見本(44%)

本書の概要と構成

第一部は古代からの教育を辿り、ローマから中国、ギリシアからインドへと、世界各地において教師が果たした重要な役目を概観する。

第二部は、19世紀の教育を取りあげる。教育において大きな挑戦がなされた時代で、大衆に教育の門戸を開き、女性に高等教育の機会を与えた。いくつかの教育革命もここで取りあげる。

第三部は、20世紀の戦争と経済不況が教職に与えた影響が語られ、大衆文化に登場する教師や、著作により世間の注目を集めた教師も紹介されている。

第四部では、いくつかの教育改革と改革者たちに目を向ける。テクノロジーの影響とともに、教育的リーダーシップと諸種の企画に光を当てている。

著者 ディアドラ・ラフテリー

ユニバーシティ・カレッジ・ダブリンの教育学部のディレクター・オブ・リサーチ(調査研究所長)であり、ボストン・カレッジ人文科学でフルブライト奨学金を受けた学者(2015-2016)でもある。また、オックスフォード大学とサザンプトン大学で特別研究員として過ごし、英国王立歴史協会の会員。

訳者 立石 弘道

1965年、東北大学文学部英文学科卒業、1970年、慶應義塾大学文学研究科卒業(英文学専攻)。1971年、日本医科大学で専任講師、助教授、1988年、日本大学芸術学部教授を経て現在日本大学大学院芸術学研究科講師。

体裁:A4変型判・上製・192頁
定価:本体5,800円+税

ISBN978-4-336-06255-0



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427http://www.kokusho.co.jp
info@kokusho.co.jp

書店印

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

ヴィジュアル版
教師の歴史

定価:本体5800円+税 ISBN978-4-336-06255-0

注文数

備考